近畿地方の弥生時代の鉄器について

野島　永

1．はじめに

近年、弥生時代の鉄器に関する知見は、その出土例の増加とともに多岐にわたってきている。とくに北部九州や中部九州における弥生時代鉄器出土例の増加は、本州の他地域との数量的格差を著しくしている。熊本県白川流域や大分県大野川流域などでは一つの集落遺跡から数十点、あるいは百点を越える弥生時代鉄器が出土する。しかし、短絡的にこの量的格差のみを強調するのでは、鉄器研究から古墳時代に連動する社会の動向を把握する視点を見失う恐れがある。小稿の目的は、近畿地方における弥生時代の最近の鉄器出土例を中心に紹介しつつ、鉄器がどのように近畿地方の弥生社会に浸透していったのかを近畿地方の北部と中部に分けて整理し、その社会について触れてみたい。

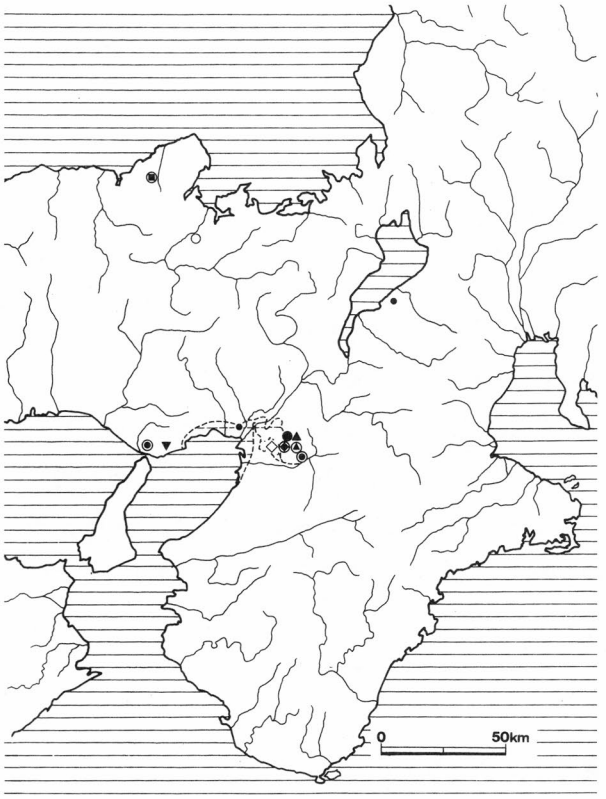
2．近畿地方の鉄器出土例の現況（第１図～第３図）

近畿地方の弥生時代の鉄器は、近畿地方中部の集落出土例と、近畿地方北部の集落および墳墓出土例がみられる。近畿地方中部における弥生時代の鉄器出土例は、大きくみれば、３つの地域に相対的に集中する。一つは、西摂から播磨一帯にかけての地域であり、弥生時代中期末からの高地性集落出土例が多い。また、北河内を中心として北摂、乙訓などの淀川流域を含めた地域にも後期以降、集落出土例が多い。さらに旧大和川流域の八尾市亀井遺跡を中心とした低地の大集落の多い中河内地域がある。この地域は、酒井氏によって５km範囲のキャッチメントエリアを持つ拠点集落が面的に配列されることが想定された畿内中枢地域でもある（酒井1984）。

一方、近畿地方北部には、日本海に面した丹後、但馬地方の河川流域の墳墓出土例がある。丹後では、竹野川流域の弥栄町、峰山町、大宮町に出土例があり、但馬では円山川流域の豊岡盆地に出土例が集中する。

弥生時代前期から中期前半（第１図[注1]）

前期から中期にかけては、鉄器出土例はそれほど多くはない。しかし、近畿地方北部と中部ともに共通して、舶載品と考えられる鋳造鉄製品の破片および、その再加工品がみら



第１図　近畿地方の鉄器出土状況(弥生時代前期～中期中葉)

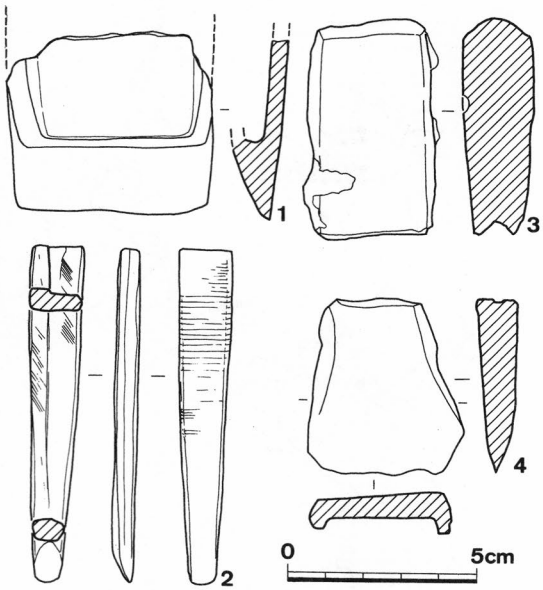
凡例

鉄鏃(有茎腸抉三角形式；▲　無茎三角形式；▼　柳葉形式；●)、袋状鉄斧；○、板状鉄斧；□、鉇；△、刀子；▽、鉄鑿；◇、鋳造鉄斧；◉、鋳造破片板状鉄斧再生品；◙、鋳造破片鉄鑿再生品；◈、鋳造破片鉄鏃再生品；◬、不明品ほか；●

れる。神戸市新方遺跡では、鋳造鉄斧の刃部破片(第２図１)が、方形周溝墓状遺構の溝内から第Ⅲ様式の土器に共伴している(埋蔵文化財研究会1984)。東大阪市鬼虎川遺跡では、鑿状鉄器(第２図２)が水流などの攪乱の認められないシルト、粘土層から第Ⅱ・Ⅲ様式を主体とした土器に共伴している(芋本・松田編1982)。八尾市亀井遺跡においても中期中葉の井戸から二条凸帯鋳造鉄斧の基部破片が出土しているようである(川越1993　16頁)。京都府中郡峰山町扇谷遺跡では、板状の鋳造製品(第２図３)が溝内より、第Ⅰ・Ⅱ様式の土器とともに出土した(田中編1984)。

このような破損鋳造品や、それを再利用して板状の手斧や鑿などの小型工具につくりかえた類例は弥生時代中期を中心として、北部九州や西部瀬戸内にかなりの類例が見られるようになってきた(野島1992b・村上1994a)。近畿地方中部では、とくに鬼虎川遺跡の貝塚上層出土の鉄鏃と上述の鑿状鉄器は鋳鉄脱炭鋼であることが指摘されている(大澤1982)。ともに微細な研磨による条痕がみとめられ、鉄鏃は、研磨によって鎬が形成されている。鉄鏃の鏃身基部から茎を作り出す方法として、両面から小円孔を穿ち、抉り込む手法が、銅鏃製作に特徴的にみられる手法であることから、畿内地方の鉄器製作に青銅器製作技術が無関係ではないことが指摘されている(芋本・松田編1982)。中期中葉以前の段階では金属素材として青銅の従属的な存在であったことがわかる。また、鉄鑿のように鋳造鉄斧側面部を打割って、擦切あるいは研磨によって成形する技術は、朝鮮半島に技術的

系譜をもつ大陸系磨製石器類の製作技術である。つまり、弥生時代中期以前には、舶載された鋳造鉄器が破損した場合、十分な鍛冶技術によって再生されたのではなく、大陸系磨製石器製作技術の一環として、再度、再生品の形態に見合うように打割して、擦切あるいは研磨による成形を施し、扁平片刃石斧や鑿形石斧などと同様に製作、使用されたものと思える。このため、近畿地方では、鋳造鉄器については、その破損品やそれを再度打割したものが半製品状の石材の一種のように認識されていたのではないかと考えられる。ただ、扇谷遺跡からは第Ⅰ・Ⅱ様式期の鍛冶滓と考えられる資料も出土しており(清永1984)、鍛造鉄器については、北部では京都府舞鶴市桑飼上遺跡の袋状鉄斧(野島1992a)、中部では東大阪市西の辻遺跡の有茎三角形式鉄鏃(菅原1988)、同、水走遺跡の鉄鑿などが出土しており、鍛造鉄器の加工技術は中期中葉にはある程度移植されていたものと見て良い。

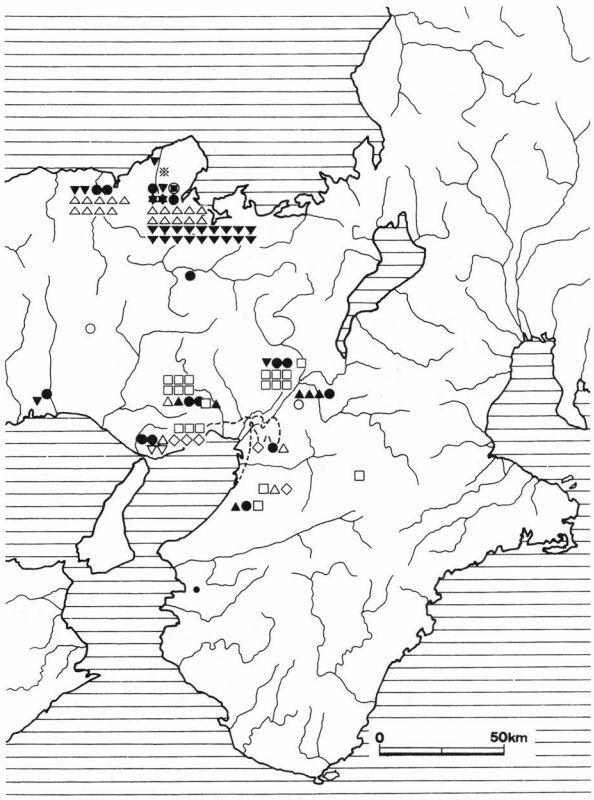


第2図　近畿地方の鋳造鉄器
1；神戸市　新方　方形周溝墓(中期中葉)
2；東大阪市　鬼虎川　包含層(中期中葉以前)
3；中郡峰山町　扇谷　周濠(中期初頭以前)
4；中郡峰山町　途中ヶ丘　溝(中期後半か)

弥生時代中期後葉から後期前葉(第3図[注2])

中期後葉には、近畿地方でも各地に鉄器の出土例が増加する。播磨・摂津・河内、但馬・丹後の各地域もそれぞれ類例が増えているため、特定地域にとくに普及するといった状況は現状では見いだせない。ただ、近畿地方中部では、低地の環濠集落の解体と高地性集落の出現の時期にあたり、当然ながら、高地性集落からの出土例が目立つ。近畿地方北部ではその大部分が墳墓出土資料であるため、直接的な比較は困難であるが、両地域を対比させながら概観したい。

近畿地方中部では、有茎の腸抉三角形式の鉄鏃が、ほかの地域には見られない特徴的な形式として出現する。上述したように有茎腸抉三角形式は銅鏃との製作技術の関連や、縄文晩期以来の打製石鏃の形態に類似することが指摘されており(芋本・松田編1982)、外来



第３図　近畿地方の鉄器出土状況(弥生時代中期後葉～後期前葉)
凡例　素環頭鉄刀；★、鉄刀；☆、鉄剣；★、
鉄鏃(有茎腸抉三角形式；▲　無茎三角形式；▼　柳葉形式；●)、
袋状鉄斧；○、板状鉄斧；□、鉇；△、刀子；▽、鉄鑿；◇、
鋤・鍬先；×、鉄鎌；＋、釣針；＊、鋳造鉄斧；◉、
鋳造破片板状鉄斧再生品；▣、鋳造破片鉄鑿再生品；◈、
鋳造破片鉄鏃再生品；◬、不明品ほか；●、
鍛冶関連遺跡；※

的な鏃の形態模倣は感じさせない。

鉄製工具としては、板状鉄斧、鉄鑿が多い。板状鉄斧は両刃で大形の伐採斧が高槻市古曽部遺跡２号住居(宮崎1993)、同、芝谷遺跡12号住居(埋蔵文化財研究会1984)から出土しているが、片刃で小形の類例(第５図９～12・15)が多く、鉄鑿と組み合わされて木器加工具として使用されていたものと考えられる。鉄鑿は、中期以来後期終末に至るまで、刃部が片刃で、小形方柱状の茎鑿の形態を変えない。前期以来の扁平片刃石斧や小形方柱状片刃石斧(鑿形石斧)を材質転換したものといえる(川越1974)。

川越氏は、この小形方柱状片刃石斧を模倣した鉄鑿(川越氏分類Ｂa型鉄鑿)は、その初現が北部九州ではなく、瀬戸内以東に見られることを指摘しており(川越1993、101頁)、北部九州の袋状鉄鑿(袋鑿)とは対立的あるいは排他的な存在であることがわかる。鉇は舶載品の可能性のある八尾市亀井遺跡ＳＥ2402出土例(第５図５)が完形を窺わせる良好な資料である。身部まで湾曲しており、幅広で古い形態に属している。このほかに良好な出土例は少ない。とくに中期後半における列島製の鉇は刃部の鎬が未発達で身部が板状で薄く、身幅の広い形態的特徴をもつ(第６図21参照)が、このような破片は少ない。身部破片のみで鉇と判断されているものでも、身幅が小さく、断面矩形に近いものは中期段階では鉄鑿の可能性が高い。つまり、現状では近畿地方中部では、木材加工具としての板状鉄斧、鉄鑿が普遍化しており、鉇はその下位の出現比率であるといえる。したがって、袋状鉄斧や

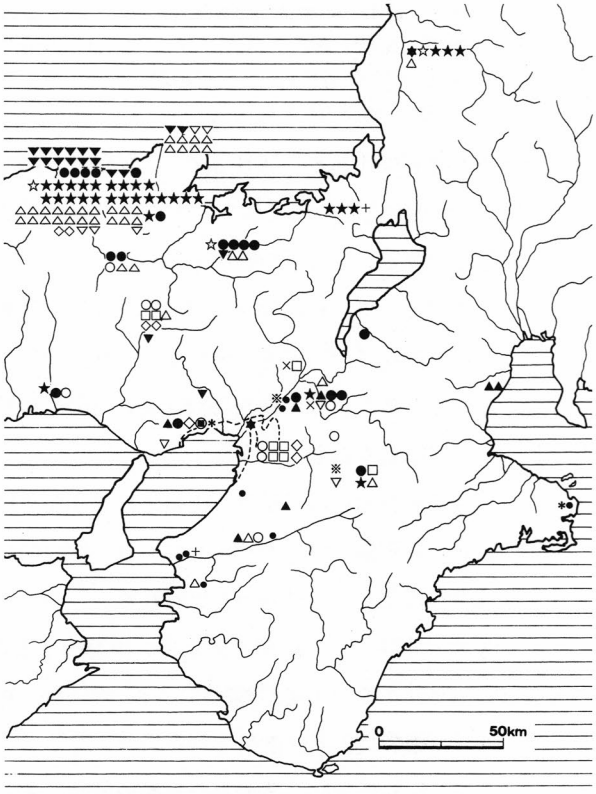
袋状鉄鑿、鉇の出土例が多い西部瀬戸内や北部九州とは異なる形態の鉄製工具の普及状況がわかる。

近畿地方北部では、後期前葉に多くの墳墓資料が報告されている。京都府大宮町左坂墳墓群26号墓第２主体、三坂神社墳墓群３号墓第10主体では、素環頭鉄刀二振り（第６図１・２）が出土している（今田1992・1993）。両者ともに共造りの楕円形に近い環を持ち、刃部側の関が明瞭な段を形成しないものである。舶載品の可能性が高い。鉄鏃では、無茎の三角形式（第６図14・15）が最も多く見られ、柳葉形式（第６図13）がそれに次ぐが数量的には少ない。豊岡市ハナ１号墳からは朝鮮半島南部原三国時代に通有な無茎で腸抉の鋭い長三角形の鏃身（第６図12）が見られ、舶載品の可能性がある。兵庫県豊岡市東山墳墓群では、刃部も身部も断面Ｕ字状に湾曲する鉇（第６図20）が出土しており（瀬戸谷1992）、これも舶載品の可能性がある。列島における鉇の型式変化の方向として、身部が板状を呈するもの（第６図21）にかわり、刃部の鎬が明瞭になり、全長が長大化して（第６図22）、身幅が小さくなるもの（第６図23・24）に変化する。

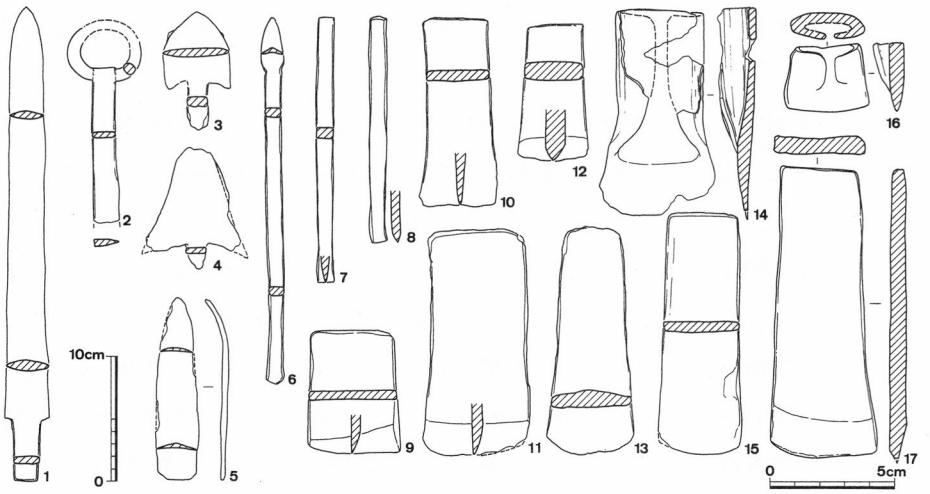
以上、近畿地方北部では、舶載品と考えられる類例が素環頭鉄刀や鉄鏃、鉇などの各種鉄器に見られ、大陸・半島との直接的な接触地域とみなすことができる。

弥生時代後期後半から庄内式期

後期後半には、鉄器は近畿地方の各地で出土し、より広範な普及を示唆しうる状況にある。しかし、近畿地方中部では、鉄剣などの鉄製武器副葬はいまだ盛行しない。京都府綴喜郡田辺町の方形台状墓では、剣身が30cmをこえる長茎の鉄剣（第５図１）が見られるが（鷹野1984）、類例は増加していない。庄内式期には、



第４図　近畿地方の鉄器出土状況（第３図凡例参照）
（弥生時代後期後半～庄内式期）



第５図　近畿地方中部の鉄器

１；綴喜郡田辺町　田辺　方形台状墓(後期)
２；大阪市　崇禅寺　土坑(庄内式期)
３；枚方市　出屋敷　３号住居(後期後葉)
４；河内長野市　大師山　２号住居(後期後半)
５；八尾市　亀井　SE2402(中期後葉)
６；城陽市　芝ヶ原12号墳(庄内式期)
７；八尾市　亀井　SD3067(後期後半)
８；八尾市　亀井・城山　第Ⅸ層(後期か)
９；三田市　奈カリ与　BH59(中期後葉)
10；神埼郡神埼町　福本　B-4住居(中期後葉)
11；八尾市　亀井・城山　SD3036(後期初頭)
12；高槻市　古曽部　住居(後期初頭)
13；八尾市　亀井　SR3001(後期後葉)
14；八尾市　亀井　SD11(後期後半)
15；宇陀郡榛原町 大王山 12地点住居(後期初頭)
16；奈良市　六条山　流路(後期後半)
17；長岡京市　谷山　SH23703(後期後半)

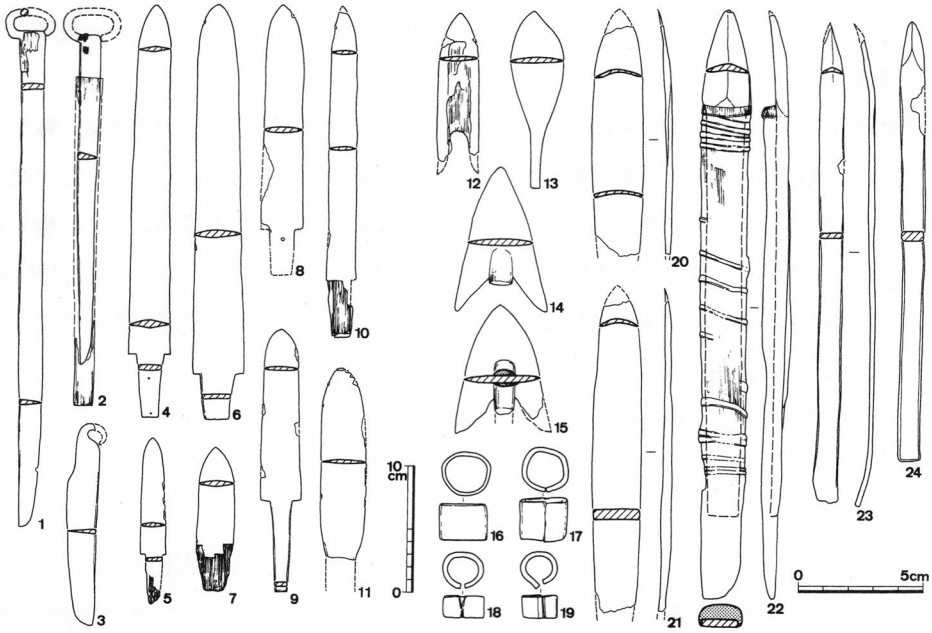
大阪市崇禅寺遺跡SK08土坑から素環頭鉄刀(第５図２)がみられるにとどまる(大野1982・1994)。正円に近い別造りの環に茎を巻きこんで成形しているようである。舶載品と考えられる。鉄鏃は依然として有茎の腸抉三角形式(第５図３・４)と有茎の柳葉形式がある。

鉄製工具も依然として、板状鉄斧(第５図13・17)と鉄鑿(７・８)が存続するが、板状鉄斧は刃部が幅広で撥形に開く形態が出現する。朝鮮半島南部や北部九州からの流入品の可能性も考えられる。また、袋状鉄斧(第５図14・16)も後期後半以降、散見されるが、北部九州のように丁寧な造りのものは少ない。

このほか、京都府長岡京市長法寺谷山遺跡６号住居や同府綴喜郡田辺町天神山遺跡５・６・７号住居から鉄製鋤・鍬先が出土しており(福永1991・森編1976)、後期後葉以降には土堀具や農具の鉄器化も進んだものと思われる。

一方、近畿地方北部では、中期後葉以来、墳墓出土資料の著しい増加が注目されたが、後期後半以降、それまでの主要副葬品目であった鉄鏃と鉇の他に、鉄剣が新たに加えられ(第６図４～11)、鉄製農工具が散見されるようになる。

鉄剣は多くが、川越氏分類の茎の長い短剣の部類に属し、短剣ⅠAb・ⅡAbとして分類される。川越氏によると、この短剣ⅠAb・ⅡAbは弥生時代終末期に中国地方以東に広範



第６図　近畿地方北部の鉄器

１；中郡大宮町　左坂26号墓第２主体(後期前葉)
２・14・22；中郡大宮町　三坂神社３号墓第10主体(後期初頭)
３；豊岡市　立石101号地点第２主体(庄内式期)
４；中郡大宮町　帯城B地区北群第１主体(後期後葉)
５～９・18・19・24；中郡峰山町　金谷１号墓(５；第10主体　６；第６主体
７・24；第15主体　８；第14主体　９；第５主体　18・19；第３主体)(後期後葉～庄内式期)
10・23；豊岡市　妙楽寺４A区３号木棺(後期後葉か)
11；豊岡市　立石103号地点第11主体(後期後葉～庄内式期)
12；豊岡市　長谷・ハナ１号墳(後期か)　　13；豊岡市　東山４号墓第18主体(後期前葉)
15；竹野郡丹後町　大山周辺第18主体(後期中葉)
16・17；豊岡市　若宮４号墓第４主体(後期後葉～庄内式期)
20；豊岡市　東山１号墓第７主体(後期前葉)　　21；豊岡市　東山４号墓第13主体(後期前葉)

に出現する列島製とされる(川越1993、176・178頁)。鉄鏃は中期後葉以来、無茎腸抉三角形式の優位は変わらず、有茎柳葉形式がそれに次ぐ出土数である。

鉇は細身のもの(第６図23・24)になり、刃部が鏝状に広がるものもみられる。

このほかに、素環頭鉄刀を模倣したと考えられる素環頭刀子(第６図３)が豊岡市立石墳墓群101号第２主体にあり(瀬戸谷編1987)、同様に鉄棒を鉤状に折曲げて環頭を作り出そうとした刀子片が中郡峰山町金谷１号墓第10主体の墓壙上から出土している(石崎ほか1995)。また、用途不明の服飾用金具とされる環状鉄製品(第６図16～19)が、同じく金谷１号墓第３主体と豊岡市鎌田・若宮４号墓第４主体で出土している(石崎ほか1995・瀬戸谷編1990)。ともに２点ずつ、単独で出土する点が共通する。

近畿地方における弥生時代鉄器受容形態の二者

以上、やや冗長にもかかわらず、近畿地方における鉄器の出土状況を大きく３段階に分けて概観してきた。

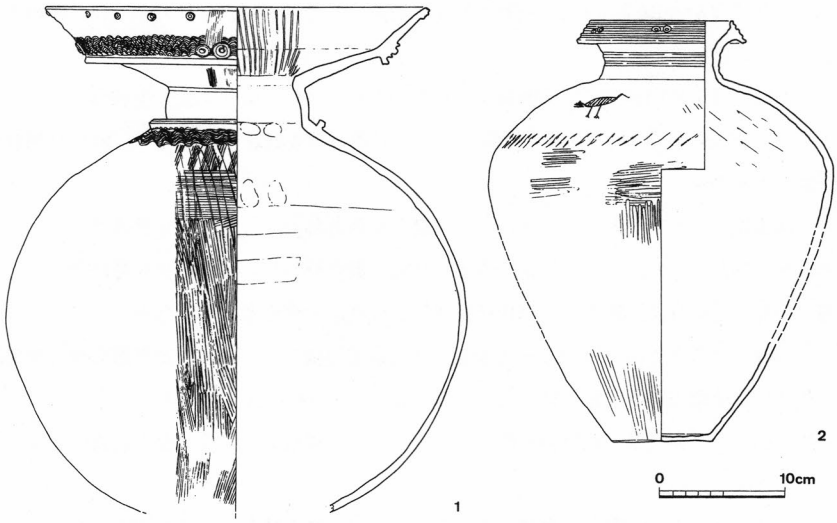
近畿地方北部では、朝鮮半島南部からの舶載品と考えられる素環頭鉄刀や鉄鏃、鉇などがみられ、後期初頭以来、舶載鉄製品を模倣して鉄製品を作り出しているといった状況が窺える。とくに近年、後期後葉以降の鉄剣出土例の増加が著しい。形態的にみても輸入したものとするよりも、独自に鋼素材を加工、製作していたものとみられる。北部九州同様、大陸や半島の鉄器の舶載や素材の輸入、鉄剣を製作しうる加工技術の移植が直接的に行ない得る地理的な条件が整っていたためでもあろう。

一方、近畿地方中部では、弥生時代中期中葉以前に、磨製石器製作技術を援用して鋳造鉄器破片の再加工を行なうといった技術的段階が鉄器文化受容の最初期に生じたものと思われる。

中期後葉から後期前葉には、鋼素材の流入が増加するためか、鉄器出土例は急増するが、工具の内容は大陸系磨製石器類(扁平片刃石斧と小形方柱状片刃石斧)の形態を模倣した板状鉄斧と鉄鑿を主体としている。袋状鉄斧や袋状鉄鑿などの「立体的な鉄器」の加工技術が浸透していなかったこととも関連して(村上1995)、それまでの磨製石器類を補完する立場から脱却しえなかったのではないだろうか。(注3) このように見れば、近畿地方中部の弥生中期社会の鉄器受容の様相は、石器石材の供給を基軸とした集落間の流通ネットワークに抵触しない程度の鉄器種と鉄器量が流通していたものと考えられる。その意味では保守的で、生産工具の革新を、自ら新しい技術を積極的に導入して行なうといった社会状況は認められない。

近畿地方中部が、従来的な鍛打、鍛接、切断による「平面的な鉄器」の加工技術(村上1995)を克服し、銑卸し法やより高度な加工および鋼製作技術を獲得する動向を見せるのは、弥生時代中期末以来の集団間の抗争を経て、新しい集団関係を再構築し、広域の物流を掌握する集団が形成され始める後期後葉から庄内式期の段階まで待たねばならない。この時期には先述したように袋状鉄斧や鋤先が製作され、素環頭大刀などの威信財鉄器の交易もはじまる。

福岡市博多遺跡の48号住居跡からは椀形鉄滓、羽口、鉄鏃、板状鉄斧などとともに畿内系二重口縁壺形土器(第７図１)などが出土している(山口ほか1993)。博多遺跡706号土坑出土鍛冶関連遺物(小畑・佐藤編1993)と同様に送風装置や防湿技術をもった鍛冶炉の性能の向上を窺うことができる(村上1993)。このような遺構に、庄内式および布留式初頭期の畿内系土器群が伴うことからも、当該時期における近畿地方中部のより高度な鉄器加工技



第７図　北部九州の鍛冶関連遺構出土土器
1；福岡市博多遺跡48号住居出土例　　2；福岡県築上郡安武・深田50号住居出土例

術と鉄素材を摂取するための動向が窺い得るのではなかろうか。(注4)

小稿は1994年２月に京都弥生談話会で発表させていただいた内容を骨子としている。発表の機会を与えていただいた吉田広氏、角南聡一郎氏に感謝するとともに、豊岡市郷土資料館長　瀬戸谷晧氏、大宮町教育委員会　今田昇一氏には出土鉄器の実測の便宜をはかって頂きました。また、未発表資料についても多くのご教示を頂きました。記して感謝いたします。

（のじま・ひさし＝当センター調査第２課調査第４係調査員）

注１　第１図・第３図・第４図の鉄器出土状況図作成に使用した文献はすべて参考文献に記載した。

注２　第３図・第４図の鉄器個体数については、実見させて頂いた未発表資料も考慮にいれているが、その数量はさらに増加する。

注３　扁平片刃石斧と小形方柱状片刃石斧の形態を模倣した板状鉄斧と鉄鑿は近畿地方以東の、関東まで広く普及しており、鉄素材の流通量と鉄器加工技術の限界性に起因するだけではなく、大陸系磨製石器類の流通構造とも関連するものと思える。

注４　福岡県築上郡築城町安武・深田遺跡の50号住居（鍛冶工房）では、吉備系の壺形土器（第７図２）が出土している（木下・水ノ江編1991）。吉備地方における後期の鉄製農工具の普及状況からすれば、畿内中部よりも吉備地方の集団の方がよりはやくに北部九州の鉄器加工技術を摂取する動向を見せたものかと思える。今後の研究課題としたい。

参考文献

網干善教・井藤徹ほか　1977　『河内長野大師山』関西大学文学部考古学研究第５冊　関西大学考古学研究室

網谷克彦　1991　『若狭中核工業団地関係遺跡発掘調査報告書』　福井県教育委員会

石崎善久ほか　1995　「金谷古墳群(１号墓)」『京都府遺跡調査概報』第66冊　(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター

石野博信・櫃本誠一・山本三郎ほか　1971　『川島・立岡遺跡』　太子町教育委員会

石部正志ほか　1970　『鶴山地区、信太山遺跡(その２)調査概報』　和泉市教育委員会

泉森皎編　1986　『奈良県遺跡調査概報1985年度』　奈良県立橿原考古学研究所

一瀬和夫　1987　『久宝寺南(その２)－久宝寺・加美遺跡の調査－』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書　大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター

伊藤勇輔編　1977　『奈良県字陀郡榛原町　大王山遺跡』　榛原町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所

今田昇一　1992　『有明古墳群・三坂神社墳墓群・三坂神社裏古墳群　現地説明会資料』　大宮町教育委員会

今田昇一　1993　『左坂墳墓群発掘調査現地説明会資料』　大宮町教育委員会

今村道雄・阿部幸一ほか　1980　『恩智遺跡』Ⅰ　瓜生堂遺跡調査会

芋本隆裕・松田順一郎編　1982　『鬼虎川の金属器関係遺物－第７次発掘調査報告２－』　(財)東大阪市文化財協会

井守徳男編　1983　『北摂ニュータウン内遺跡調査報告書』Ⅱ　兵庫県文化財調査報告書第16冊　兵庫県教育委員会

入江洋・平川清式　1970　『田口山弥生時代遺跡調査概要報告』枚方市文化財調査報告第２集　枚方市教育委員会・田口山遺跡発掘調査団

岩崎誠　1991　「神足遺跡」『長岡京市史』資料編一、長岡京市史編さん委員会

植野浩三ほか　1994　「兵庫県ボラ山１号墓発掘調査概要報告」『文化財学報』第12集　奈良大学文学部考古学研究室

宇治田和生ほか　1986　『出屋敷遺跡Ⅱ　調査概要報告』枚方市文化財調査報告第19集　大阪府東部公園事務所・(財)枚方市文化財研究調査会

江谷寛・瀬川芳則　1968　『大阪府枚方市鷹塚山弥生遺跡調査概要報告』　鷹塚山遺跡発掘調査団

江谷寛・瀬川芳則　1971　『藤田山遺跡発掘調査概要報告』　藤田山遺跡調査団

大澤正己　1982　「第６章　鉄鏃と鑿状鉄器の冶金学的調査」(芋本隆裕・松田順一郎編　1982『鬼虎川の金属器関係遺物－第７次発掘調査報告２－』　(財) 東大阪市文化財協会)　49～68頁

大槻真純　1979　「久田山」『綾部市文化財調査報告』第５集　綾部市教育委員会

大野薫　1982　『崇禅寺遺跡発掘調査概要Ⅰ－大阪市東淀川区所在－』　大阪府教育委員会

大野薫　1994　「近畿地方弥生時代の素環刀」『大阪府埋蔵文化財協会研究紀要』２　(財)大阪府埋蔵文化財協会

岡崎正雄・深井明比古　1985　『丁・柳ヶ瀬遺跡発掘調査報告書』兵庫県文化財調査報告書第30冊　兵庫県教育委員会

岡田章一・渡辺昇　1989　『半田山』山陽自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅸ、兵庫県文化財調査報告第65冊　兵庫県教育委員会

小畑弘己・佐藤一郎編　1993　『博多』37　福岡市埋蔵文化財調査報告書第329集　福岡市教育委員会

亀田博　1982　『菟田野町　見田・大沢古墳群』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第44冊　奈良県立橿原考古学研究所

川越哲志　1974　「弥生時代鉄製工具の研究(Ⅰ)－板状鉄斧について」『広島大学文学部紀要』第33巻　広島大学文学部　172～193頁

川越哲志　1984　「研究ノート　弥生時代農工具鉄器化の諸段階」『たたら研究』第26号　たたら研究会　45～48頁

川越哲志　1985　「鉄器の生産」『弥生文化の研究』5　道具と技術Ⅰ　雄山閣　17～25頁

川越哲志　1993　『弥生時代の鉄器文化』　雄山閣

川崎公敏・近藤義行編　1986　『芝ヶ原古墳』城陽市文化財調査報告書第16集　城陽市教育委員会

河野一隆　1994　「国道176号関係遺跡発掘調査概要(3)白米山北古墳」『京都府遺跡調査概報』第57冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

岸本道昭編　1993　『小神芦原遺跡　龍野芦原団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』　龍野市文化財調査報告10　龍野市教育委員会

喜谷美宣　1981　「天王山4号墳」『日本考古学協会56年度総会発表資料』

木下脩・水ノ江和同編　1991　『椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告－4－』福岡県教育委員会

清永欣吾　1984　「Ⅳ　鉄製品の化学分析」(田中光浩編　1984　『扇谷遺跡発掘調査報告書』京都府峰山町文化財調査報告第10集　峰山町教育委員会)

近藤滋・松沢修　1983　『獅子鼻B遺跡発掘調査報告書－神崎郡能登川町きぬがさ所在－』　滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

酒井龍一　1984　「弥生時代中期・畿内社会の構造とセトルメントシステム」『文化財学報』第三集　新井清先生送別記念論集　奈良大学文学部文化財学科　37～51頁

清水眞一　1995　「纏向遺跡出土の金属器の新例」『みずほ』第15号　大和弥生文化の会　35頁

清水尚ほか編　1992　『県道高野・守山線特殊改良工事に伴う高野・辻遺跡発掘調査報告書Ⅱ』　滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

釋龍雄編　1977　『途中ヶ丘遺跡発掘調査報告書』京都府峰山町文化財調査報告第3集　峰山町教育委員会

菅原章太編　1988　『西ノ辻遺跡・鬼虎川遺跡』西ノ辻遺跡第6次、第7次、第8次調査・鬼虎川遺跡第18次調査概要報告書　東大阪市教育委員会・(財)東大阪市文化財協会

瀬戸谷晧編　1984　『兵庫県豊岡市長谷・ハナ古墳群』　但馬考古学研究会

瀬戸谷晧編　1987　『兵庫県豊岡市北浦古墳群・立石墳墓群』　豊岡中核工業団地予定地内埋蔵文化

財発掘調査報告３　　豊岡市教育委員会
瀬戸谷晧編　1988　『本井墳墓群・尼城址』豊岡市文化財調査報告書18　豊岡市教育委員会
瀬戸谷晧編　1990　「豊岡市鎌田・若宮古墳群」『豊岡市文化財調査報告書集　1989年度』豊岡市文化財調査報告書23～25　豊岡市教育委員会
瀬戸谷晧編　1992　『上鉢山・東山墳墓群－広域営農団地農道整備事業にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書－』豊岡市文化財調査報告書第26集・豊岡市立郷土資料館報告書第26集　豊岡市教育委員会
平良泰久ほか　1983　『丹後大山墳墓群』京都府丹後町文化財調査報告第１集　丹後町教育委員会
平良泰久・岡田晃治編　1987　「帯城墳墓群Ⅱ」『埋蔵文化財発掘調査概報』　京都府教育委員会
鷹野一太郎　1984　『田辺遺跡・城跡現地説明会資料』　田辺町教育委員会
高橋徹・広瀬雅信・畑暢子　1983　『亀井』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書　大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
田代弘　1992　「第１節　興遺跡」『京都府遺跡調査報告書』第17冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター　８～138頁
田中光浩ほか　1983　『扇谷遺跡発掘調査報告書』京都府峰山町埋蔵文化財調査報告書第12集　峰山町教育委員会
田中光浩編　1984　『扇谷遺跡発掘調査報告書』京都府峰山町文化財調査報告第10集　峰山町教育委員会
種定淳介　1990　『七日市遺跡(Ⅰ)－第２分冊－』近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書、兵庫県文化財調査報告書第72－２冊　兵庫県教育委員会
寺川史郎・尾谷雅彦編　1980　『亀井・城山』　(財)大阪文化財センター
寺沢薫編　1980　『奈良市　六条山遺跡』奈良県文化財調査報告書第34集　奈良県立橿原考古学研究所
土井孝之　1986　『船岡山遺跡発掘調査報告書』　和歌山県教育委員会
土井孝之　1992　「畿内周辺地域の鉄鎌一例」『弥生文化博物館研究報告』第１集　大阪府立弥生文化博物館　83～88頁
中谷雅治編　1979　『坂野－坂野丘遺跡・坂野４号墳発掘調査報告書－』京都府弥栄町文化財調査報告第２集　弥栄町教育委員会
禰宜田佳男　1992　「近畿地方の石斧の鉄器化」『大阪府立弥生文化博物館研究報告』第１集　大阪府立弥生文化博物館　65～74頁
野島永　1992a　「弥生時代鉄製品の新例」『京都府埋蔵文化財情報』第44号　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター　42～44頁
野島永　1992b　「破砕した鋳造鉄斧」『たたら研究』第32・33号　たたら研究会　20～30頁
櫃本誠一ほか編　1975　『但馬・妙楽寺遺跡群』豊岡市立郷土資料館調査報告書第５集　豊岡市教育委員会
萩本勝ほか編　1990　『三重県鳥羽市白浜遺跡発掘調査報告』　本浦遺跡群調査委員会
広瀬和雄・石神幸子編　1986　『亀井(その２)』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発

掘調査概要報告書　大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財センター
深井明比古・岡野慶隆ほか　1982　『坂根遺跡』兵庫県文化財調査報告書第14冊　兵庫県教育委員会
福井市史編纂委員会編　1990　「原目山墳墓群」『福井市史』資料編１　考古　福井市
福井英治編　1982　『田能遺跡発掘調査報告書』尼崎市文化財調査報告第15集　尼崎市教育委員会
福永伸哉　1991　「谷山遺跡」『長岡京市史』資料編一　長岡京市史編さん委員会
藤永正明・阿部幸一　1987　『亀井(その３)』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書　大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
堀江門也・菅原正明ほか　1979　『東山遺跡』　大阪府教育委員会
本堂弘之ほか　1993　『一般国道23号　中勢道路　埋蔵文化財発掘調査概報』　三重県埋蔵文化財センター
埋蔵文化財研究会事務局編　1984　『埋蔵文化財研究会第16回研究集会発表要旨関連資料集１・２(弥生時代から古墳時代初頭における鉄製品をめぐって)』　埋蔵文化財研究会
松井和幸　1982　「大陸系磨製石器類の消滅とその鉄器化をめぐって」『考古学雑誌』第68巻第２号　169～210頁
松永博明ほか　1985　「宇陀地方の遺跡調査－昭和59年度－」『奈良県遺跡調査概報1984年度』　奈良県立橿原考古学研究所
宮崎泰史編　1984　『亀井遺跡』Ⅱ　寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ　(財)大阪文化財センター
宮崎康雄　1993　「古曽部遺跡」『高槻市文化財年報平成３年度』　高槻市教育委員会
村上恭通　1992　「中九州における弥生時代鉄器の地域性」『考古学雑誌』第77巻第３号　63～88頁
村上恭通　1993　「古墳時代の鉄器生産」『考古学ジャーナル』No.366　ニューサイエンス社　31～35頁
村上恭通　1994a　「弥生時代中期以前の鋳造鉄斧」『熊本大学考古学研究室創立20周年記念論文集』龍田考古学会　71～86頁
村上恭通　1994b　「弥生時代における鍛冶遺構の研究」『考古学研究』第41巻第３号　60～87頁
村上恭通　1995　「星ヶ丘遺跡の鍛冶遺構について－近畿地方における鉄器供給問題－」『みずほ』第15号　大和弥生文化の会
村川行弘・石野博信　1964　『会下山遺跡』芦屋市文化財調査報告第３集　芦屋市教育委員会
村川行弘・村川義典　1984　『春日七日市遺跡－確認調査報告書－』　春日七日市遺跡発掘調査団
森浩一編　1976　『同志社田辺校地　田辺天神山弥生遺跡』　同志社
森大輔　1984　『家原・堂の元遺跡　国道175号線社バイパス工事に伴う調査』　加東郡教育委員会
森格也・宮下睦夫編　1988　『石田三宅遺跡発掘調査報告書Ⅰ－滋賀県住宅供給公社宅地造成事業に伴う－』　滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会
山口譲治ほか　1993　『博多』36　－第59次調査報告－　福岡市埋蔵文化財調査報告書第328集　福岡市教育委員会
山田隆一　1988　「近畿弥生社会における鉄器化の実態について」『網干善教先生華甲記念考古学論

集』　165～192頁
山田隆一　1989　「近畿地方の弥生時代鉄器一覧表」『元興寺文化財研究』　(財)元興寺文化財研究所通信No.29　3～8頁
山田隆一　1994　「古墳時代初頭前後の中河内地域―旧大和川流域に立地する遺跡群の枠組みについて―」『大阪府立弥生文化博物館研究報告』第３集　大阪府立弥生文化博物館　119～146頁
山本三郎・渡辺昇　1983　『半坂峠古墳群　辻遺跡』兵庫県文化財調査報告書第18冊　兵庫県教育委員会
若林泰・斉藤英二　1963　『伯母野山弥生遺跡』神戸市文化財調査報告6　神戸市教育委員会

図版出典　(参考文献図版を一部改変の上、再トレースして掲載した。)
第１図　参考文献をもとに筆者作成　第２図　１；埋蔵文化財研究会事務局編1984　２；芋本・松田編1982　３；田中ほか1983　４；田中編1984　第３図　参考文献をもとに筆者作成　第４図　参考文献をもとに筆者作成　第５図　１；鷹野1984　２；大野1982　３；宇治田ほか1986　４；網干・井藤ほか1977　５；広瀬・石神編1986　６；川崎・近藤編1987　７；高橋・広瀬・畑1983　８・11；寺川・尾谷編1980　９；井守編1983　10・12；埋蔵文化財研究会事務局編1984　13；藤永・阿部1987　14；宮崎編1984　15；伊藤編1977　16；寺沢編1980　17；福永1991　第６図　１；今田1993　２・14・22；今田1992　３・11；瀬戸谷編1987　４；平良・岡田編1987　５～９・18・19・24；石崎ほか1995　10・23；櫃本ほか編1975　12；瀬戸谷編1984　13・20・21；瀬戸谷編1992　15；平良ほか1983　16・17；瀬戸谷編1990　　第７図　１；山口ほか1993　２；木下・水ノ江編　1991